

(様式 1)

環 境 配 慮 検 討 書

令和 7 年 1 月 30 日

三重県環境調整システム推進会議 会長 様

三重県熊野建設事務所長

三重県環境調整システム推進要綱第 4 条の規定に基づき提出します。

対 象 事 業 の 名 称		主要地方道御浜紀和線（御浜 I C (仮称) アクセス道路） 道路改良事業
連絡先	担当課所名	三重県熊野建設事務所 事業推進室道路課
	電話番号	0597-89-6145

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1) 名称	主要地方道御浜紀和線（御浜 I C（仮称）アクセス道路）道路改良事業	
(2) 目的	本事業は、国が計画・施工する一般国道 42 号紀宝熊野道路の御浜 I C（仮称）へのアクセス強化に加え、災害拠点病院である紀南病院への救命・救急搬送や地域間移動の円滑化・迅速化に必要なバイパス整備を目的とする。	
(3) 事業主体	三重県熊野建設事務所	
(4) 計画内容	①計画地の位置	御浜町下市木地内 ～ 御浜町阿田和地内 （参考図-1 参照）
	②建物・施設等の概要 （用途、規模、面積、配置等）	対象道路延長 2.2km （参考図-1 参照）
	③用水の使用計画	なし
	④エネルギーの使用計画	なし
	⑤雨水、汚水の排水計画	雨水：路面、法面の排水計画あり 汚水：なし
	⑥道路・交通計画	整備延長：2.2km 道路構造：第 3 種第 3 級 設計速度：50km/h 交差点：8 箇所
	⑦工期	ア) 着工の予定時期 イ) 完工及び供用開始の 予定時期 ・着工：令和 8 年頃（予定） ・完工及び供用開始：令和 10 年代後半（予定）
(5) 関連事業 計画	<ul style="list-style-type: none"> ・一般国道 42 号紀宝熊野道路 道路改良事業 ・町道紀南病院線 道路改良事業 	
(6) その他	特になし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1) 計画地の社会的条件の現況	①交通の現況	対象地の近郊は、交通網が発達しており、主要な幹線道路（一般国道 42 号、県道鵜殿熊野線、県道御浜紀和線、町道紀南病院線）や鉄道（ＪＲ紀勢本線）が整備されている。
	②土地利用の現況	対象地は、都市計画上の用途地域には指定されておらず、農業振興地域整備計画による農用地区域が大部分を占めている。また、丘陵地形でミカン畑が広がり、家屋が点在している。
	③水域利用の現況	対象地の近郊は、県管理の二級河川（市木川、広田川、尾呂志川）があり、七里御浜へと流れ出ている。
	④生活関連施設の現況	生活関連施設の立地状況 a. 学校施設：なし b. 医療施設：紀南病院 c. 文化施設：なし d. そ の 他：きなん苑（老人保健施設）
(2) 関係法令等による地域の指定規制状況	①自然環境保全地域等の指定状況	自然環境保全地域（地区）、自然公園地域（区域）、鳥獣保護区の指定状況 a. 自然環境保全地域：指定なし b. 自然公園地域：指定なし c. 鳥獣保護区：指定あり（御浜町神志山、御浜町阿田和井戸ノ谷）
	②土地利用規制の現況	都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況 a. 都市計画法：規制なし b. 農業地域振興法：規制あり（農用地区域） c. 森林法：規制なし d. 砂防法：規制なし e. 地すべり等防止法：規制なし f. 急傾斜地災害防止法：規制なし g. 河川法：規制なし h. 海岸法：規制なし i. 文化財保護法：規制なし j. 景観法：規制あり（三重県景観計画） k. 土砂災害防止法：規制あり（土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域）

3 計画地の自然的条件の現況

(1) 地形 ・地質	文献調査	文献名	平成 30 年度道改第 21 号交付金事業市木阿田和線（下市木）地質調査業務委託		
	現地調査の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無 (実施日時 令和 5 年 4 月)		聴取調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
	調査結果等	<p>地形：調査地点は、海岸線から約800m内陸部に位置し、地形は海岸線から内陸に向って海浜(B)、砂州(S)、海岸平野(C)、段丘(LL・L・M)、丘陵地(h)及び浅い谷(V)谷底低地(F)などで構成されている。</p> <p>このうち、海浜は熊野から新宮にかけて海岸沿いに直線的に連続する砂礫堆であり、“七里御浜”と呼称されている。この内陸側には、河口や湾口が砂州等で閉塞されたことで形成された潟湖が点在しており、一部で後背湿地化している。</p> <p>さらに内陸側には、標高100mに満たない段丘と標高100～200m程度の丘陵地及びこれらを開析して流下する市木川沿いの谷底低地や小規模な浸食谷が分布している。</p> <p>地質：対象地域の基盤は、四万十累層に属する古第三系の音無川層群から成り、音無川層群は下位より阿田和累層、瓜谷累層、羽六累層に区分されている。</p> <p>対象地周囲ではこれらを覆って段丘堆積物が分布し、また市木川沿いや海岸沿いでは谷底堆積物（沖積堆積物）が表層を覆っている。</p>			
(2) 水象	文献調査	文献名			
	現地調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 (実施日時)		聴取調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
	調査結果等 ①河川、湖沼	事業区間の起点側に市木川、終点側に広田川・尾呂志川が流れている。			
	②海域				
(3) 気象・ 大気質等	調査の方法	気象庁ホームページ (観測所：熊野新鹿観測所、御浜アメダス観測所)			
	調査結果	<p>計画地最寄りの気象観測データ(2023年)は下記のとおり</p> <p>気温 : 17.7℃(熊野新鹿観測所)</p> <p>降水量 : 2930mm/年(御浜アメダス観測所)</p> <p>最多風向：北西(2023年、熊野新鹿観測所)</p> <p>風速 : 1.7m/s(熊野新鹿観測所)</p> <p>その他、大気質や騒音・振動については、近郊に大気環境測定局や自動車交通騒音測定箇所がないためデータはないが、豊かな自然環境に恵まれた地域であり、各基準値を超えるような状況にない。</p>			

(4)生態系等	文献調査	文献名	①三重県指定希少野生動植物種（三重県ホームページ） ②三重県レッドデータブック 2015		
	現地調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無	(実施日時)	聴取調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
	調査結果等 ①植物	植生の概要：①にて事業区間付近に1種類の植物を確認 貴重な植物個体：ハマナツメ 貴重な植物群落：志原川河口は、志原川河口志原川と産田川が合流して熊野灘へそそぐ河口の潟湖と湿地帯であり、大規模なハマナツメ群落やヨシ原がある。植物はハマナツメをはじめヒキノカサ、ノウルシ、ホザキマスカサ等の希少種を含む177種が確認されている。			
	②動物	動物相の概要：②にて事業区間のメッシュ内に8種類の動物を確認 貴重な動物：以下のとおり 哺乳類) コキクガシラコウモリ、カモシカ 鳥類) チョウヒ、セイタカシギ、ハヤブサ、イカルチドリ、コアオアシシギ、コミミズク			
(5)自然景観・文化財等	文献調査	文献名	第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書		
	現地調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無	(実施日時)	聴取調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
	調査結果等 ①自然景観	自然景観の概要：七里御浜海岸と山々に挟まれた良好な自然景観を有する 貴重な自然景観：自然景観資源（湖沼）：大前池・志原池・壺の池・向井馳池 特定植物群落：七里御浜国有林			
	②文化財、 史跡、 名勝等	史跡・名勝・天然記念物：特になし 埋蔵文化財包蔵地：特になし			
	③野外レクリエーション 他	特になし			
(6)その他、 自然災害等	特になし				

4 事業計画の検討内容（複数案比較）

	事業計画案(1案)	比較検討（A案(2案)）	比較検討（B案(3案)）
(1) 計画の概要	経済性を考慮しつつ、平面線形を緩やかな線形とした案	現道に沿ったルートとし、畑地の分断を極力避ける線形とした案	極力直線として走行性を重視し、縦断勾配緩和のためにトンネルを用いた案
(2) 環境評価 ①循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築、 ②人と自然が共にある環境の保全、③やすらぎとるおいのある快適な環境の創造			
①-1 地球温暖化防止	△ 大規模な切土区間では多くの樹木が伐採される。しかし、バイパス整備による走行時間短縮によるCO2抑制や沿道住環境の改善が期待される。	△ 事業計画案よりは小さいが、切土区間では多くの樹木が伐採される。しかし、バイパス整備による走行時間短縮によるCO2抑制や沿道住環境の改善が期待される。	○ トンネル構造により大規模切土が生じない。なお、バイパス整備による走行時間短縮によるCO2抑制や沿道住環境の改善が期待される。
①-2 廃棄物対策	△ 大規模な切土区間では多くの樹木が伐採される。	△ 事業計画案よりは小さいが、切土区間では多くの樹木が伐採される。	△ トンネル構造により大規模切土は抑制できるが、大量の残土が生じる。
①-3 生活環境の保全	○ 宅地および農地への影響が小さく抑えられる。工事期間が最も短く、生活環境への影響が小さい。	△ 農地への影響は小さいが宅地への影響が大きい。比較案の中で最も住宅地への距離が近く騒音等の影響が大きい。	△ 宅地への影響は小さいが農地への影響が大きい。工事期間が最も長く、生活環境への影響が大きい。
①-4 その他重点項目	— 該当なし	— 該当なし	— 該当なし
②-1 野生生物等の生育空間の確保	△ 切土により一部改変する区域があり野生生物等の生育空間や獣道等の移動路を分断している。	△ 比較案の中で、最も改変面積が大きいため、野生生物等の生育空間への影響が大きい。	△ 切土により一部改変する区域があり野生生物等の生育空間や獣道等の移動路を分断している。
②-2 希少な野生生物の保護	△ 計画地域には希少動植物等が生息するため、影響がある場合は必要に応じて移植を行う。	△ 計画地域には希少動植物等が生息するため、影響がある場合は必要に応じて移植を行う。	△ 計画地域には希少動植物等が生息するため、影響がある場合は必要に応じて移植を行う。
②-3 地形、地質等の改変の抑止	△ 一部で大規模な切土・盛土が生じるが、現況地形に極力合わせることで地形改変を抑制している。	△ 事業計画案よりは小さいが比較的大きな切土・盛土区間が生じる。	△ トンネル構造により大規模切土は抑制できるが、地下水への影響が懸念される。
②-4 その他重点項目	— 該当なし	— 該当なし	— 該当なし
③-1 緑化、周辺景観との調和	○ 切土・盛土区間は植生により緑化を図る。	○ 切土・盛土区間は植生により緑化を図る。	○ 切土法面、盛土法面は緑化を図る。
③-2 親水等、ふれあい空間づくり	— 該当なし	— 該当なし	— 該当なし
③-3 その他重点項目	— 該当なし	— 該当なし	— 該当なし
④上記以外の 特記事項(経済性)	○ 12.7億円(概算)で最も経済的である。	○ 15.0億円(概算)で計画案より経済性に劣る。	△ 29.1億円(概算)で最も経済性に劣る。

5 事業計画案の環境配慮に係る評価

長 所	現況地形に極力合わせた平面線形、縦断線形であり、地形改変を極力抑えた計画である。支障となる家屋が少なく、大規模な切土法面、盛土法面は緑化を図ることで、景観にも配慮している。
短 所	一部区間で山間部を切り開くため、樹木の伐採が多くなる。
会議で調整を要する事柄	特になし。

県道御浜紀和線(御浜IC(仮称)アクセス道路)の計画位置



計画重ね平面図

凡 例

- : 用地制限範囲
- : 第 1 案
- : 第 2 案
- : 第 3 案

